

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

議長より登壇の許可を得ましたので、これより2番浦泰孝の一般質問を始めさせていただきます。

私は、今回の質問において、100年に一度と言われる昨今の厳しい不況と財政状況の中、本武雄市が前向きで自立的な発展を目指し、その上でのキーワードとして、1つに、安心・安全、そしてもう1つに、にぎわいという言葉を選びました。

市長は、きのうまでの答弁の中で、幾度となく、暮らしやすいまちづくり、安心して産み育てやすいまちづくりを目指していると言われました。私も同じく、今この不況の中で武雄市民が真に求めるものは、武雄でなら安心して住み、そして、育て頑張っていけるという安心感にほかならないと思ったからであります。まさにそれは市民病院の民営化による持続的な安心できる地域医療の存続も政策の一つでありましょう。また、家計に密接に関係する公共料金のうち、最大十数%を引き下げられた水道料金や、旧市町間でさまざまな施設、様式の違いのある下水道使用料金を最低限度額で統一を図ったこと。そして、今後のコストをかんがみだ市町村設置型浄化槽方式への推進、また、今後見られるであろう介護保険料の見直しなど、そして、21年度より実施予定の対象を就学前まで引き上げられた乳幼児の医療費助成などは、本当に子育て中の家庭にとっては喜ばれる政策であると思われまます。しかも、数値、金額に先んじ、とらわれるだけではなく、早期の起債償還や借りかえ、公立保育園の民営化などによる財源確保の上での政策実行は、評価に値するものだと思います。質問は、このほかに市民の安心を満たすものとして、防災について、そして交通安全、また環境整備の3項目を挙げさせていただいております。

2つ目のキーワード、にぎわいでもあります。

先日、テレビで「カンブリア宮殿」という番組を見ておりまして、心に残ったものがありました。それは、「にぎわいは財を成す」、または、金を生むというたぐいの言葉です。これも、きのうまでの質問の中でもたびたび出てまいりました。また、副議長も尽力されたモーターショーの例であります。1万人とも推定された盛況のおかげで、飲食店の販売はかなりのものだったと予想されます。同時開催であったバレンタインの夜の灯ろう祭りも多くの方に来場していただいたと聞き及んでおりますし、昨年の山内開催のがばい産業まつりも、これまでにない人出を記録しております。特にこれらのイベントには、市外からの参加、来場が目立ち、武雄市の知名度アップ、そして、武雄市の観光地としてもポテンシャルの高さを物語るうれしい材料ではないでしょうか。がばいばあちゃんロケ地、誘致などの評価などで優秀観光地賞を受賞したことも朗報でありました。これらに関し、質問は新しい起爆剤として期待も大きいイノシシに関する事、また、新幹線に関する2項目であります。それでは、早速質問に入らせていただきます。

まずは、防災に関してでございますが、記憶にも新しい昨年の10月1日未明に、大阪個室

ビデオ店にて出火し、16名が死亡するという痛ましい火災が起きております。犠牲者の多くは、一酸化炭素中毒や気道熱傷などによりとうとい命を落とされているわけですが、個室ビデオ店という商業施設の入り組んだ構造や管理者のずさんな防災意識も浮き彫りとなったわけであります。商業施設など、多くの人の往来がある建造物においては、避難経路の確保や消防設備の管理及び緊急時に対する訓練などは必要不可欠なものであります。

さて、昨今、高齢化が顕著に進む現代、当武雄市においても、特別老人施設、デイサービスセンター、あるいはケアハウス、グループホームなど、多くの高齢者を対象とする施設がふえております。昨日の高木議員の質問の中にもありましたように、県はこれらの施設を今以上ふやさない方針であるとのことですが、施設利用を希望する御本人、また家族の方は、ふえることはあっても減少することはありません。ほかにも小・中学校、保育園、障がいをお持ちの方の施設など、大型主要施設は市内に多数現存するわけですが、これらに対し、行政として地域防災計画における火災や防災に関する指導、対策状況を、まずお示しいただきたいと思っております。同時に、要援護を必要とされる方の救助マニュアル等も市では作成されているようですが、そちらについての説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。防災に関しての御質問だったかというふうに思います。

このたび3月29日に、大野地区及び地元消防団の主催で、地域の福祉施設と連携した防災訓練を開催していただくということをお聞きしておりますけれども、このことは、地域の防災力向上に大きく寄与するものということで非常に感謝をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この3月、今月の29日の日曜日の大野地区の消防総合訓練の実施要領というのを事務方からそういうレクチャーを受けたんですね。もうすばらしい、これだけ我々として一番弱点と申しますか、そういった本当にしなければいけないところがきちんと書いてある。これのすばらしいのは、行政主導ではなくて、大野区の皆さんたち、そして、浦議員も窓口でこう書いてあるんですねけれども、大野地区の皆さんたちが一緒になって一生懸命やっついこうと、それと、消防の9分団ですか——9分団の皆さんが中心となって、福祉施設そよかぜの杜さん、くろかみ学園さん、そして、ここに大野病院が入っているのも特筆すべきだと思うんですね。ということで、非常にこれは現実性のある、そして、これは絶対にしなければいけない訓練だと思っておりますので、私個人的には、これは表彰状を、感謝状をお渡ししてもいいぐらいのものだというふうに思っておりますので、

この訓練の内容等については、当日ちょっと私は公務、別がありまして伺うことはできませんけれども、後でまたしっかり方向を承りたいと。これを市政に反映させてまいりたいと、これぐらい注目をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

1点、すみません。防災マニュアルということで、全体的には防災、災害時の要援護者の支援マニュアル、これはもう通常の防災のときにも使えるマニュアルでございまして、こういったことを整理しながら7点ほど整理をしております。

それから、地域住民に期待される活動というようなことでも6点ほど整理をしながら進めております。

あとは、自助といいますか、みずから避難するためにはどうするのかというようなこともマニュアルとして整備をしております。これについては、いざというときのためにということで、消防団等にもお配りをし、また民生委員さん等にもお配りをし、いざというときの行動に備えていただくということで準備をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

先に大野地区の防災訓練に関しまして御答弁をいただいたわけですが、私のほうからも少し御説明をさせていただきます。

山内町の大野地区は、山内西小学校を中心に、J A住吉とか、くろかみ学園、竜門堂大野病院、芳華保育園、そよかぜの杜など、多くの大型主要施設が健在しております。山内西地区の文教、医療、福祉の中心地であり、申されたとおり、今回、大野地区の消防団の自発的なたつての希望により、今月29日にそよかぜの杜を第1回として、施設、区、行政、消防、警察の連携による火災避難訓練が計画されております。本当に素晴らしいことだと思っております。先日、松尾初秋議員から消防団に関する御質問等がありましたが、山内町においても、これは例外ではなく、大変消防団を取り巻く状況は厳しいものがあります。若い方が少ない上に、不景気で、地元貢献、地域貢献に対するボランティアに対する意識が少し薄くなった観もございます。しかしながら、この大野地区の消防団の方々は、ことしの新年会の席だったらしいんですが、区長さんや役員さんたちに、この大野地区の消防団の方みずから直談判をされ、何かあったときにこういう大きな施設では大変心配だからということで、ぜひとも施設で訓練をさせてくれと直談判をされたそうです。私も地元の宮野という地区で消防団に所属をしておりますが、そちらのほうも結構熱心な地区ではあるんですが、改めてこの

発案と申しますか、これに関しましては、本当に尊敬の念を感じるとともに、非常に感動を覚えた次第であります。話にもありますとおり、自助、共助の観点に立ったすばらしい自主防災組織のモデルケースにもなり得るもので、広く武雄市内はもちろん、県下にもいい意味での影響を与えていくものではないかと私も感じたところであります。それで、私も微力ながらお手伝いをする中で、2度ほど会議のほうに出席をさせていただきました。武雄市の消防署及び分署の皆さんの対応の早さと、市長も見ていただきますとおり、訓練要綱の綿密さには本当にただただ感心をさせられるばかりでございました。また、その会議の中で、西分署署長様があいさつで言われた言葉なんですけれども、「このように、地区、消防、警察、行政、施設と、これだけの団体が1つの思いで防災訓練を練るということは、もうその時点でこの本来の目的を半分達成しているようなものだ」ということで、本当に印象になった言葉でありました。この訓練は、先ほど申したとおり、今回のそよかぜの杜を第1回とし、今後くろかみ学園ですとか、またあるいは、竜門堂大野病院ですとか、それぞれ要援護を必要とされる入居者の方、それぞれ立場が違うわけで、自走できる方もいらっしゃれば、障がいをお持ちの方はまた、緊急時にパニックを起こされるケースもございます。本当にそれぞれにケースが違い、最新の注意を払わなければいけない訓練になると思います。

そして、これは当日の訓練終了後なんですけれども、災害時における備蓄食材について、市がとり行う災害訓練時にも試食をさせていただいたことがあります。これを予定されておりますが、備蓄食材についての管理状況、また交換サイクル等がわかればお示しください、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

まず、災害の備蓄品でございますけれども、これにつきましては、食料品、飲料水をその整備計画に基づきまして、平成19年度から4年間で5,783人分、これは1人3日分でございますけれども、備蓄をしております。

場所といたしましては、基本的には北方支所、山内支所、あと分散備蓄ということで、橘町とか、各町の公民館にも分散備蓄もしているところでございます。

これの使用につきましては、本来、災害があったときに緊急時に使うというのが目的でございますけれども、先ほどおっしゃいました、こういった訓練等におきましても、この備蓄品を使って訓練に充ててもらっておりますので、今回、大野地区での訓練に際しましても、この備蓄品を使っての訓練もしていただけるんではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

備蓄に関してはありがとうございました。また、今回の訓練に関して、これも大野地区の消防団の方から出てきた意見であります。なかなか水利もあるようでないところがございます。それで、限られた水利を確保するために、小学校がすぐ近くに隣接しておりますので小学校のプールを有効的に活用したいとの意見がございました。そのためには、校外からプールの入り口へ入るわけでございますが、そちらのかぎの管理を、緊急時に対応できるように消防団あたりにも管理をさせていただくことができないかどうか、そちらの要望があったんですが、この件に関して御質問をいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、提案がありました学校のプールのかぎの管理、もちろん施設のこととかかわり合いがあるというふうに思いますけれども、これは前向きに検討をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

ただいま山内町の東野地区、小学校でいうと西小学校に限ったお話でございましたけれども、限られた水利に関しましては、武雄市内に存在する小学校、またあるいは中学校のプールなどの水利の利用もあるわけございまして、ただ立地条件に関しまして、学校によっては丘の上にあってその水利としては目的を果たさないとか、必要ない部分はあるとは思いますが、そういった他校と申しますか、西小学校以外のそういう展開は考えられますでしょうか、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、議員が言われるように、すべてが利用できるかということ、いろんな地形の状況、それから、高さの状況、そういうものを勘案しながら、利用をできる部分については前向きに検討していくということをお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

同じく水利についての質問なんですけれども、くろかみ学園に関しては、巨大な浄化槽がありまして、そちらの浄化槽を利用して防火水槽として活用されていると聞いております。経費削減に多大な貢献をさせていただいている事例でありますけれども、防火水槽等、あるい

は消火栓などの消防設備、施設にかかる費用、またあるいは通常つくる防火水槽の容量など、こういった件に関しまして、以前にも質問されたかと思いますが、要望状況と実施建設状況などをお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

まず、消防水利の整備状況でございますけれども、防火水槽が現在までに358基、消火栓が783基ございます。防火水槽につきましては、40トン以上と40トン未満と、それから消火栓につきましては、地下式、地上式というようなことで整備をしています。毎年、現在防火水槽を1基、消火栓を7基分、予算化をしながら対応しているところでございまして、21年度の予定といたしまして、防火水槽1基約650万円、消火栓が8基分480万円の予算化をお願いをしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

乾燥時期の火災などのときに私どもは出動する場合がありますが、場所によっては、水利地の確保になかなか手間がかかったりするケースも多々ございます。今後もこういった施設に関しては、要望が出ている分は少しずつでも建設のほうをよろしくお願い申し上げます。

地域防災組織としては、私は以前、常襲水害地対策特別委員会に所属しておりました折に勉強をさせていただきました橘地区の組織に、一日の長を感じざるを得ないところでございます。区長さんをトップに、行政や消防との連携、そして、児童の皆さんたちも危険場所の防災マップを作成するなど、地域を上げた協力、団結が素晴らしいと当時感じました。この大野地区の防災訓練が、橘地区に続き、武雄市の自助、共助の大きな流れになることを期待申し上げます。

それでは、次の質問に移らせていただきます。安全・安心の2つ目の項目でございます。交通に関してです。

山内町宮野地区の県道梅野有田線の残り工事区間につきましては、本年度9月議会におきまして、大変危険な現状を、実際の事故などを紹介させていただきながら、早期事業化及び完成を強く要望させていただいたところであります。したがって、詳しい現状などは割愛をさせていただきますが、路線内では事故なども変わらず続いており、地元の方も本当に着工完成を懇願されております。現時点での進捗状況及び執行部としての所見のほうをお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、以前の浦議員の御質問を踏まえて、私は何回か時間帯を変えてこの梅野有田線のところへ行ったんですね。本当にこれはちょっと命の危険を感じるぐらいのことはやっぱり私自身も感じました。トラックが非常に多いということと、少しカーブがあるということで非常に見通しが厳しいということで、風圧をすごく感じるんですね。私ですら風圧を感じるということは、子どもたちは一体どうなんだろうということを思いましたので、私のほうからは、基本的に道路の行政はもう副知事が所管しておりますので、これは副知事に対して早くしてくださいということは申し上げました。そのときの回答は、本件については重く受けとめるということで、21年度については、これは引き続き調査測量が予定をされています。いずれにいたしましても、御質問を受けまして、やっぱり自分の身になって、市民の一人の身になって立ったときに、ここは早くしなきゃいけないというふうに思った次第でございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

ただいま市長から御答弁をいただきましたとおり、自分の家族や子どもたちのことを考えたときに、本当に身にしみて感じていただけるのではないかと思います。この路線に限ったことではないんですが、年明けから年度末のこの時期になると、大体、保育園から小学校に上がられる新1年生と家族の方が、学校までの道のりを通学の練習をされるのを時々見かけるんですけども、ややもすると自分の背中より大きいランドセルを背負って新1年生が通う姿、それが本当にこういった危険な道路、交通事情にさらされているというのはいたたまれないものがあると、家族以外でも思うんです。それで、市長が先ほど御答弁いただきますとおり、時を置かずして早速みずからこの路線を歩いていただいたということ、そして、まちづくり松尾部長のほうにもそういう確認をしていただいたところ、本当に感謝申し上げます。県の土木事務所においても、緊急性を本当に深く感じておられて、事業化に向けての調査測量をいただいているということでございますけれども、現実には完成には早くとも四、五年はかかるわけでありまして、その間に重大な事故が起こらないとも限りません。そこで、特に水尾団地入り口から100メートルほどの、今、市長がお示しいただいた部分でありますけれども、両わきがほとんど白線から外がなくて、田んぼへ2メートルから4メートル落ち込んでおります。その間だけでも急ぎの歩道を何とかつくっていただくことはできないかということを以前から申し上げていたわけですが、例えば、県の管理する県道工事において、前例はまずないと思いますが、武雄市の21年度当初予算の一般道路整備事業費1億5,000万円などのうちから、そういったところから何とか財源を絞り出して、市の財源で何

とかすることはできないものか、ちょっとお願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にはできません。これは県道の場合、道路管理者がもちろん県でありますので、これは法的にも県が行うべき事業というふうになるんですね。ただ私は法よりもやはり命だと思えます。これは病院の話にも出ておりましたけれども、それを考えた場合に、あくまでもこれは武雄市山内町の路線でありますので、市としてできることはないか。場合によっては、これは私のまだ個人的な見解なんですけれども、緊急避難的に県の整備は整備をして、やっぱり六、七年はかかると思うんですよね。ですので、あそこに100メートルが一番危ないところですよ。これを市が何とかできないかということについては、県と協議をしたいというふうに思っております。いずれにしても、これをもし行うことになると、恐らく全国的に見てもほとんど例のないことですのでハードルは高いと思えますけれども、やはりそういう決まり事よりもやっぱり命、安全・安心を第一に考えて、まずは行動をしたいというふうに思っております。この件については、議会が終わったら、早速管理者の県と協議をしたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

御答弁のとおり、多分私も前例もないし、ハードルは高いということを知った上での御質問でございます。そして、それをさせていただいたということは、だめもとと申しますか、それだけ地域の住民の危機感と申しますか、要望は強いということで酌み取っていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

また、この路線内においてのことですが、最近、水尾ダムから水尾団地を通る市道から県道に進入、出られる際に、重傷の接触事故が起きました。そちらは角が石垣になっておるもので、直線にもかかわらず見通しが悪く、出るときにミラーに頼る進入となります。しかし、冬場には夜露が凍りまして、ほとんどミラーが機能しないような状況が朝は起こっております。これに関しまして、一月ほど前に山内支所にて報告と相談をさせていただきました。そして、まちづくり部の課長のほうへ相談をしたわけなんですけど、その折に、その場ですぐに早速若い職員の方がパソコンで調べてくださいました。例えば、ミラーだけ交換できる熱線入りのものがあるものかですとか、またあるいは、冬場のみの対応ですので緊急避難的にコーティング剤などを塗布する方法はないですかとか、その場では結論は出ませんでしたけど、私はそのときに大変思ったのは、市の職員の方が親身になって早い対応をしていただいたこと

に關しまして感謝をしたところであります。この件も含めまして、交通のいろんな施設、設備などが日進月歩でより安全なものが開発等もされているものと推察しております。施設、製品の状況、または県、武雄市での新しいこういった製品の導入事例などがありましたらお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

カーブミラーでございますが、今、市で使っているのは、曇りにくいカーブミラーというのが、ちょっと薬剤を塗布したカーブミラーがあるんですけど、それを今新しいところには随時つけていっております。それで、古くなったところにも、更新のときにはそのミラーを使うというふうに今やっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

私は今まで2点ほど指摘をさせていただきましたけれども、これはあくまで私たちが知り得る範囲の地元の危険な路線場所などの把握に限られております。全市では、また各地区いろんな場所に危険地区ですとか、交通安全面で不備な場所もあるかと思っておりますので、再度の確認と対応を全市的によろしくお願い申し上げます。

路線の交通安全の2点目ですけれども、年末にライトアップなどでにぎわう雄岩雌岩と乳待坊展望台に通ずる市道宮野線というのがございます。合併までの山内町時代においては、県立黒髪少年自然の家付近まで拡張工事が予定をされておりました。しかしながら、この財政難と緊急性の優先順位などから、小路という地区がございまして、小路地区で一応の事業終了を迎えておりました。ただ、既存道路部と工事終了部の取りつけがやや急でありまして不自然なため、ガードレールに接触される事故が幾つか起きております。また、これは反面、にぎわいとしては大変うれしい状況なんですけれども、先にあります黒髪温泉が大変好評でありまして、連日、日に250人から多いときには300人を超える入湯者がいらっしゃるそうです。湯量や、あるいは施設の規模からこれを超える入湯はなかなか難しいという現状でお断りをされているような状況の日もあるということでもございました。そしてまた、黒髪山は、山内の方面からと有田の方面から登れるわけでもございますけれども、確かな数値の把握はできておりませんが、山内町の登山客、またあるいは観光客は2万人から3万人年間いらっしゃると聞いております。また、乳待坊の下にあります県立黒髪少年自然の家もそちらの利用者は年間2万人を超えておるそうです。これらを踏まえましても、黒髪温泉入り口付近の道路整備について、温泉付近までの整備はやはりしていただくほうが望ましいのではないかとということで、こちらに関しても要望が上がっていると思っておりますが、所見をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに車はいっぱいですもんね。あそこの黒髪温泉のところは本当にもう数年前の状況を知っておりますけれども、見まがうばかりの車の量で、そして、あそこはさっきおっしゃっていただいたように結構、登山客、あそこはウォーキングの皆さんたちも御一緒です。そして、ちょっとやっぱりここもS字になっておりますので、非常に見通しが厳しいということ。そして、地元の宮野区の皆様から2月3日に要望がなされております。この要望書は、私もしっかり副市長とともに目を通しておりますけれども、今後は地元の用地協力が大事だと思うんですよね。これはどこもそうなんですけれども、用地協力と、私どももいたしましては交通量、歩行者数、利用状況をちょっときちんと調べさせていただきたい。その上で、道路整備に、私の肌感覚ではこれは必要だというふうに思っておりますので、ちょっとデータと突き合わせて、今後については検討させてもう少し時間を与えていただきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

前向きな御答弁ありがとうございます。本当に秋の紅葉と、そして、今からの桜の季節は乳待坊の観光客、そして、登山客のほうも大変ふえられます。執行部の皆さん、そして、議員の皆さんも多分同じ武雄市内とは言え、西の果ての山内町の宮野のこの場所でございます。ぜひとも一度はごらんになっていらっしゃる方は来ていただいて見ていただきたいものだと思います。

それでは、3項目めの質問に入らせていただきます。

20年度補正予算に上がっております山内町支所周辺の駐車場整備、またあるいはデイサービスセンターの改修工事などが予算計上をしていただいておりますが、現時点でのわかる範囲で結構です。事業内容について御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

山内町の老人福祉センターの件でございますが、これにつきましては、平成13年、旧山内町時代から山内町の老人クラブのほうから陳情が上がりまして、旧武雄市では日輪荘、それから北方町では長寿園という老人福祉センターがございますが、ぜひともそういうものをつくっていただきたいということが上がっていたかと思っております。そういう認識をいたしております。まず、その中で、既存の施設を利用して整備するという考え方を持って対応し

てきてまいりましたが、現在のデイサービスセンターを改修し、老人福祉センターにしたいというふうに考えております。

それから、それに付随する駐車場につきましては、全体で4,000平方メートル程度ございますが、今から設計するわけですが、その中にはJR通勤者への駐車場、あるいは送迎のための駐車場、それから4,000平方メートル程度と広うございますので、その中でイベントができる、あるいは待ち時間にちょっと憩うことができるという、そういう機能も考えたいと思っております。いずれにせよ、皆さん方の御要望を踏まえて設計していきたいというふうに考えております。

今回、議案としてデイサービスセンターの改修の設計費用、それから駐車場の整備費用、それから旧庁舎の除却費用を予算計上いたしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

今、部長のほうから事業に対する説明をしていただいたわけですが、私も旧山内町時代からの若干の経緯を知っているものとして皆様に少し紹介をさせていただきたいと思うところがございますけれども、当時から関連団体の皆さんを中心とした思いなんです。今ありましたとおり、平成13年ごろにこの要望を発しまして、老人クラブ連合会、あるいは手をつなぐ育成会、婦人会、文化連盟、女性ネットワークほか9つの団体が福祉の連携、拠点として、総合福祉センターの建設の要望が上がっております。当初は平成15年度に事業として取り組む予定もありましたけれども、市町村合併の機運も高まり、1市3町によるリーディング事業として、当時は、旧武雄市で上がっていたのが駅前整備、北方町が道路、下水道の整備、またこの当時は嬉野町も入っておりましたので、嬉野町が元湯の整備等が上がっていたと記憶しております。平成17年に5件の地権者より土地開発基金にて用地の取得も終了しております。また同時に、地質調査、基本設計ともに完了をしておりました。平成18年、合併後に施工予定を上げておりました。土地の買収に関しましては、福祉センター建設により山内の福祉の貢献になればという献身的なお気持ちで大事な土地を譲渡いただいた地権者のありがたいお気持ちも本当に尊重しなければいけないところではあります。しかしながら、時は移り、御存じのように三位一体の改革により交付税の削減はふえる一方、税源移譲など地方の財源の確保がままならない状態、現状は御存じのとおりであります。もちろん今回も改めまして、老人クラブのほうの皆様から要望書もいただいております。皆様の中には、いまだかつて当時の総合福祉センターのような箱物と申しますが、総合福祉センターの建設を望まれる方も強い思い入れもあられるわけですが、それと同時に、今ありましたとおり、長寿園やそういったほかの地区の利用もなかなか現実には山内からは少ないようでありまして、また利用も心苦しい部分が現実にもあります。ただ、数億円をかけて建

設が困難であることも、もちろん理解はしていただいております。また、それだけにとどまらず、何よりも年間数千万円単位の多分維持費もかかるということも、捻出は大変厳しいものがあるでしょうし、現在あるものを活用するという観点から、今、デイサービスのほうも、社協や、あるいはシルバー人材センターあたりの事務所としても活用されておりますので、そういった事務所の活用等も出てくるわけですが、こういった調整は空き庁舎の活用などとも兼ね合いが出てくるものと思います。これらの提案に関しましては通告が出ておると思うんですけれども、同僚山口裕子議員からも話が、今後提案もあると思いますので割愛をさせていただきますが、市長の御意見をまずお聞かせ願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

この山内町の福祉センターについては、ちょうど私が3年前に選挙に出たときに、山内町の皆さんから、これはぜひつくってほしいということを選挙戦のときから伺っておりました。時を経て3年たつわけでありましてけれども、今般、まず老人クラブ連合会の皆様方が何度か私のところにもお越しいただいて、これはぜひつくってほしいということ。それと、先ほど浦議員からいみじくもありましたように、市の財政事情もよくわかりますので、新たにつくるのではなくても構わないので、そういう施設の改修でもいいからぜひつくってほしいという切実な言葉をいただきました。

それともう1つが、やはり福祉いうことを真摯に考えてみたときに、地域密着、自分の特に高齢者の皆様方でありますので、やはり自分たちの住むところの近くにやっぱりなければならぬと、これは福祉の原則に近い言葉だとは思っております。それを私は杉原議長に教えていただきました。したがって、今回いろんな曲折がありましたけれども、私どもといたしましては、先ほどありました一番に使っていただく老人クラブ連合会のお気持ち、御要望、そして杉原議長を初めとする山内町の議員の皆さんたちが本当に我々の事情も御理解していただきながら、特に山内町の高齢者の皆様方に福祉のサービスをきちんときめ細かにしなければいけないということで、私は今回の補正に設計費の計上を決意したところであります。いずれにいたしましても、実は今まだ詳細が決まっていないうですね。どの建物にどういうふうにするかということは、この前老人クラブ連合会の皆様方が来ていただいたときも活発な議論をいただきましたので、ぜひこういうふうにしたいということについては、我々行政側も真摯に耳を傾けて本当にいいものを改修し、つくっていけるように努力をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

同時に駐車場の整備の件も付随するわけでございますけれども、三間坂駅前ですね、朝夏の通学・通勤時にラッシュの解消は本当に望まれております。近年は伊万里市からの生徒さんの通学もふえて送迎の車が大変並んでいる状況が起こっております。これも含めまして、る歴史的なことも含めて申し述べてまいりまして、行政にこういった過去のノスタルジックなことを持ち込むことはいかがかと思われるかもしれませんが、当時の旧山内町は小さい自治体ながらもダム建設やバイパスの整備、下水道の完備などと、大型の事業に着手をしておりまして、残す懸案、要望事項がこの福祉センター建設のみであったこと、そして、合併時の皆さんの要望とともに心残りであったことを皆様に少しでも御理解とお酌み取りをいただきたいということで、あえて紹介をさせていただきました。市長も大分御答弁いただきましたけれども、今後の事業遂行におきましては、既存施設において活動されております、今申し上げました社協やシルバー人材、老人会、そういった団体の方々の御意見等も十分に考慮、そして、反映をしていただき進めていただきたいことを加えてお願い申し上げます。

それでは、大項目の2つ目、にぎわいに関する質問をさせていただきます。

1つ目のイノシシに関することでございます。

先月、武雄地域鳥獣食肉加工センターCHOTOTU-MOUSIN（猪突猛進）「やまんくじら」が山内町鳥海地区におきまして落成の運びとなりました。がばいやレモングラスなどに続く武雄市の産業振興の起爆剤として本当に期待も大きいわけでございますけれども、これも落成式のエピソードですけれども、猟友会の渕会長のお言葉の中に、「製品及び販路を広く全国や、あるいは海外にまで展開をして、少しでも武雄市のために寄与したい」という本当に元気で力強いお言葉に感激したわけであります。この件に関しまして、また進んだ状況があれば、レシピや、あるいは加工製品、今後の展望についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これも本当にイノシシでこれだけ注目をまた集めるというのは夢にも思っていなかったんですね。今、これは「朝ズバッ！」で、市民病院も「朝ズバッ！」で取り上げられましたけれども、やはりこのテレビの影響力ですね、「朝ズバッ！」で取り上げられて、もう今は国民の皆さんたちとは言いませんけれども、あたかも武雄、山内はイノシシの肉が買えるとか食べられるとかいうふうになっていて、ある意味、非常に渕さんを初めとして猟友会の皆さん、石丸議長さんを初めとして関係者の皆様方が先んじてやっていただいたということが武雄ブランドの早く近道にできるということで、もう今肉より名前のほうが先行しています。特に私が感謝をしたいのはやはり渕さんです。名前も実は「やまんくじら」と「やまんラーメン」とありますけれども、「やまんくじら」ということで出していくと。これは何人か女

性の方々に聞いてみたんですけれども、非常にネーミングがいいねということで、そういう意味で言うと、これは本当に繰り返しになりますけれども、武雄ブランドになり得ると。あとはやはり最初の取っかかりの部分で足りないと思うんですね。これだけやっぱり需要が富山県であるとか、東京であるとか、大阪であるとか、もう肉は早くほしいというところも来ておりますけれども、あそこは1日で4頭ぐらいしかまず処理、加工ができないんですね。ですので、継続的にやっていけるようなことを考えていきたいと。まず私どもにとって非常にラッキーだったのは、先に話題になったので、非常に販路がもうそこで見えていると。そこにきちんとしたものを出していくという意味でいうと、ほかの自治体よりもはるかに恵まれている環境にあるというふうには思っております。4月1日には、いのしし課の看板かけもぜひやりたいと思っておりますので、行政もこれは樋渡市政の21年度の目玉の事業の1つとして、イノシシの肉の振興、もちろんイノシシの有害動物としての駆除もしっかりやらなくてはなりませんけれども、ある意味、猪突猛進で頑張っていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

同時に今話にもありましたとおり、農作物に対する影響、駆除という視点からもイノシシの加工場ということもあるわけでございますけれども、そういったときに狩猟免許をとっていただくわけでございますけれども、狩猟免許、狩猟者の登録、これは狩猟税というんですかね、そちらのほうが必要になってくるようでございます。狩猟免許にかかわる費用が、おおむねどれくらいかかるか、そして、特に要望等がありますけれども、それに対する補助等があればお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、免許取得の費用を申し上げますと、狩猟の免許の手数料が5,300円かかります。それから、免許を取るために事前講習会が必要ですので、その費用が1万1,000円、そのほかに健康診断書の経費がございます、これが約5,000円程度。それから、登録の手数料が1,900円、それとあと、狩猟税が8,200円、それとハンター保険が3,000円ということで、そのほかに猟友会費等もあるようでございます。それで、補助については、今まで市としてはなかったわけですが、昨年の10月のいのしし会議の折にも、各地区においては、免許をとった方は少ない地区もあるということで、そこについて要望がありました。その中で、新年度からですが、先ほど言いました狩猟免許の手数料5,300円、これについては、武雄地区の有害鳥獣広域駆除対策協議会から補助をしたいということ。それからもう1点、西九州地域に対策防

止の協議会がございますので、先ほどの講習会費用の1万1,000円については、そっちのほうから補助をしたいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

補助があるということで、大変ありがたいことではあります。ただやはりこういった狩猟の免許をとられる方は意外と高齢の方も多くて、先ほど上がったような金額を調達するためにはちょっとつらいという方も意見としてありました。それで、また先日、山口昌宏議員も申されましたけれども、ちょっと関連してきますが、市の職員などを退職された方の中には、樋渡市政を縁の下で支えると申し上げますか、いろんな陰となって支えていらっしゃる方がいらっしゃいます。それは、レモングラスの栽培をされたり、あるいはシルバー人材などで地域に貢献したりとか、いろんな方がいらっしゃるのが山内の私の周りでも見受けられます。今回のイノシシの加工場につきましても、狩猟免許を取得するのが金額的に含めてもっと簡素化できないものかなど、そういった御要望も受けたところがありました。それで、私が県のホームページから知事への質問の欄をちょっと見たところ、県は平成18年度に狩猟免許特区を設けて、その試験の問題数を3分の1程度に減らして試験をとりやすくしたという実績があるとちょっと書いてありました。先ほどの補助のほうもいろんなところから、広域駆除対策協議会ですとか西九州地域鳥獣被害防止協議会ですね、そういったところから補助をいただくわけでございますけれども、武雄市独自としての何らかの形の補助ができる可能性があればお尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

21年度については、先ほど言いましたように、武雄地区での有害鳥獣広域駆除対策協議会ですか、これは市のほうからの補助金を出して、そこから協議会で使うことになっておりますので、市のほうからの補助が出ておるということを考えています。

それで、あとについては、まず、いのしし会議をいたしますので、その中でいろんな意見を聞きながら、また検討をしていきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

このイノシシの加工場に関しましては、いずれにせよ猟友会との連携はもう不可欠ではございますし、今答弁にありましたとおり、事業の推進、経緯にともなって、またいろんな検討をお願い申し上げます。

もう1個だけイノシシに関してですが、昨年度の猟の実績のほうから猟友会から要望が上がっていたと思いますが、今年度は駆除期間における捕獲頭数が予想を大幅に上回ったと聞いております。その捕獲頭数と増加分に対する措置についての対応をお聞かせください、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

御質問の捕獲の報奨金でございますけれども、これについては、7月から10月までの、いわゆる駆除期間に捕獲をした分についての助成をしておるわけですが、まず捕獲の頭数を申し上げますと、平成18年度が1,419頭、平成19年度が797頭、それからことし平成20年度が1,541頭ということで、昨年約倍ぐらいにふえているということで、予算についても確かに不足をするということで、予算については過去3カ年の平均ぐらいで上げておりますので、ことしは不足をするということで今3月議会に補正をお願いしているところでございます。

それから、今後の対応につきましては、今までは5,000円を出したりとか6,000円を出したりとかいろんな単価がございましたので、猟友会とも話をして、捕獲の数がふえても減っても一律5,000円をお願いしたいということで、今、猟友会と話をしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

いよいよ本当に4月1日から、いのしし課もスタートをするということですし、ことしの秋からは加工場のほうも本格的に猟が始まり運営をされていく運びと思います。本当にさらなるにぎわいを武雄にもたらしていただけるように、市民こぞっての応援をお願いするものでございます。

それでは、にぎわいの最後の項目でございますが、新幹線に関しましての質問に移らせていただきます。

新幹線につきましては、これまでに数人からの議員の質問があり、重複する点もありますので、この際まとめて簡潔に質問いたします。

まず1つ目は、今後のスケジュール、特にこれから中心線、または基準線の測量が着工されるわけですが、一番気になる点は、地元の方の用地買収のために確定する時期等が気になる場所であると思いますので、そちらの辺を含めたスケジュールに関する質問を1つと、もう1つは、既に着工になっております長崎側のトンネルの工事ですかね、そちらのほうの着工状況のほうを2つだけお示しください。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

まずもって、用地買収等々、スケジュール的なことをございますけれども、昨日の一般質問でもお答えしましたとおり、現在、中心線測量、地形測量を行いまして、来年、21年度になりますけれども、実施設計を行うようになっております。その後、早いところからではあるというふうに考えておりますけれども、早ければ22年度から用地買収に入るということで聞いているところであります。

それから、トンネル工事等の状況をございますけれども、佐賀県側の工事としましては、嬉野市の俵坂トンネル、これは全長5,500メートルあるみたいであります。この終点側3,000メートルにつきまして、既に発注が済んでいるところでございます。現在の作業状況をございますけれども、今月の工事についての地元説明会を行い、4月からは仮設道路の造成を行いまして、本格着工については今年7月からということになっているみたいでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）

新幹線につきましては、9年後先、10年後先を目指して着工が決定したということでありましたけれども、私の地元山内の方と話す機会があっても、目に見えてなかなかわからないものですから、どがかなりよつとやという話があったものですから、こうやって改めて皆さんの期待がまた膨らんでいくと思っております。

そして、新幹線に対して要望ではございますけれども、建設の事務所を武雄市のほうに誘致をしていただきました。そして、前回ありましたとおり、備品類を扱う地元業者などの登録も商工会議所や商工会を通じてあったようであります。今、工事の経過等も話していただきましたけれども、この工事に関しましての建設業者等もできる限り地元建設業者を優先的に使っていただけるような要望を今後もしっかり伝えていただきたいことを要望いたします。

そして、安全面と最大限の効率化を望めるように、これも皆さんの御意見と一緒にになりますが、複線化や高架化などの対策も切に望むものでございます。特別委員会のほうで出水市のほうに視察に行かせていただいたわけですがけれども、そちらのほう、薩摩藩の有数の上屋敷、城下町があるにもかかわらず、大変失礼な言い方かもしれませんが、新幹線駅のメリットが観光に対して、いま一つ生かせていないように私は感じとったわけですがけれども、駅前周辺にはビジネスホテルが2つ、3つ新しく建っているような状況でありましたけれども、やはり武雄市としまして、にぎわいをよりもたらずような新幹線、本当の活用ですね、そして、いかに武雄駅で降りていただいて、はっきり申し上げればお金を落としていただけるとような観光地として頑張っていけるかなと思います。医療と温泉のまち武雄を目指す市長はおっしゃられておりました。それに伴いましてですけれども、先ほどちょっと触れまし

た、私の地元黒髪山はロケーションにも恵まれて、最高のいやしの場所、地域、観光資源であります。この辺に関しましては、次回の一般質問等などでも、または提案等をさせていただこうと思っておりますが、最後になりますが、今後も住みやすいまちづくり、にぎわいのあるまちづくりのために邁進されていかれることを、樋渡市長の邁進を期待しまして、私の質問を終わらせていただきます。